

令和 6 年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立鶴見橋中学校

令和 7 年 2 月

大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

現状と課題

全国学力・学習状況調査結果等から、生徒たちは興味・関心をもって学習に取り組んでいるものの学力向上に十分結びついていない現状が見られる。日々の教育活動を通じて、より深く生徒理解に努め、基礎学力の定着・向上を図り、子どもたちが自立するために必要な力を身につけさせる必要がある。また、本校の人権教育の取組を充実させ、「いのち」や「つながり」を大切にする教育活動を展開し、自尊感情の育成に努める。それらのことを踏まえ、次の３点について学校課題として取り組む。

- ①子どもたちが自立し、将来の『社会の形成者』となるような取組
- ②『いのちの大切さ』『人と人とのつながり』を大切にする教育の取組
- ③自己実現を図る教育の取組

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を令和 3 年度と比較し減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均の割合をいずれの学年も 0.8 以上にする。
- 令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合をいずれの学年も 50%以下にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、対全国の 1.1 倍にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を 100%にする。
- 教員の勤務時間の時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下を満たす教職員の割合を 50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 30%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業数日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合を 50%以上にする。

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進

- ・「いじめ」に対する生徒の意識の向上について、目標を達成することができた。
- ・不登校の在籍率、改善率について、共に改善できた。今後も生徒、保護者に寄り添った支援を続けていく。
- ・「命や人権の尊さ」に対する生徒の意識の向上については、まだ目標には達成していない。取り組みは充実している。事前、事後の意義付けをさらに重視していく。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」については、まだ目標に達成できていない。生徒の自尊感情を高めていく教育の充実をさらに進めていく。
- ・支援教育研修、巡回相談での生徒理解については、計画通り取り組むことができた。今後は、令和8年度の校内通級指導への体制づくりに取り組んでいく。
- ・SWPBS（学校規模ポジティブ行動支援）の取り組みは継続し、さらに良いものにしていく。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・チャレンジテスト国語、数学の平均点の対府比を同一集団で経年比較については、中学2年から中学3年の経年比較については、向上させることができなかったが、中学1年から中学2年の経年比較については、向上させることができた。府平均の7割に満たない生徒の割合については、中学2年から中学3年の経年比較については、改善させることができなかった。今後も授業改善、学習環境改善を基本とし、基礎的学力の向上に取り組む。
- ・英語力調査 CEFR AI レベルの30%の目標は達成できなかったが、英検5級の合格率は向上させることができた。
- ・「教科の学習はわかる」については、目標を達成させることができた。授業に対する意欲・興味関心については、持たせることができています。
- ・「運動やスポーツが好き」について、目標は達成できなかったが、学年の枠を超えて全校生徒で体育的行事に意欲的に取り組めることができた。
- ・次年度は家庭学習の充実に取り組む。

学びを支える教育環境の充実

- ・「授業で ICT を毎日使用」について、教員の使用はできている。今後は、生徒が主体となって ICT 機器を使用した共同学習への授業スタイルの改善に取り組む。同時に、従来の生徒がノートを書くなどの「書く」ことも重視し、バランスをとった学習指導に取り組む。
- ・教職員の時間外勤務については、改善することができた。学校行事等の見直し、会議の削減、定時勤務退勤日の設定などにさらに取り組む。
- ・学力面、生活指導面の両面でのデータ活用をさらに進める。改善状況の見える化を図る。学力面については、各学力調査結果（対平均比 平均の7割比の経年化比較変化など）生活指導面については、学校評価アンケート結果、アセスのデータ項目、遅刻数などの集計での経年変化を活用していく。

(様式 2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標Ⅰ 安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。 R6 7 月…74% 12 月…76% ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。 R6 7 月…78% 12 月…73% ○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 R5 1 学期末…7.8% R6 1 学期末…7.1% R5 2 学期末…7.0% R6 2 学期末…5.4% ○年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。 R6 7 月…61% 12 月…65%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向Ⅰ 安全・安心な教育環境の実現】 ○「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう学年ごとにカリキュラムを作成し、授業力向上の研修を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向Ⅱ 豊かな心の育成】 ○自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を、学校全体として年 3 回(平和登校日・人権集会・人権作文発表会)以上実施する。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向Ⅲ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ○自分たちの地域や将来について考える取組を、地域の方と学校が連携して毎週 1 回(火・木)以上実施する。	B

<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「将来の進路や生き方について考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○週 1 回、ユネスコタイム(朝鮮問題研究会・多文化学級・同和教育・支援教育)に取り組み、国際理解教育を深め、国際社会を生き抜く力を育む。</p> <p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「様々な国や文化について学んだことがある」について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○支援教育に関する校内研修を年 1 回以上実施する。</p> <p>○支援教育の巡回指導を年 1 回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。</p> <p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p> <p>○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p>	A
<p>取り組み内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○学校規模ポジティブ行動支援の考えに基づき、目指すべき生徒像「鶴見橋中 3 つの T」を策定し、今年度の教育活動の基礎として位置づけ、生徒へのフィードバックを行う。</p> <p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合を 70%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合は 86%であった。目標とする 90%にはわずかに足りなかったが、学年ごとに「いのちの教育年間計画」に基づき実践することができた。</p> <p>取組内容②</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合は 86%であった。目標とする 90%にはわずかに足りなかったが、3 回以上学校全体で人権に関わる取組を実施することができた。</p>	

取組内容③

○生徒対象のアンケートで、「将来の進路や生き方について考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合は 85%であり、目標とする 80%を達成することができた。地域と連携し、火曜日のほっとスペースと木曜日のユネスコタイムを 1 年を通して実施することができた。

取組内容④

○生徒対象のアンケートで、「様々な国や文化について学んだことがある」について肯定的に答える生徒の割合は 82%であった。目標とする 90%には達しなかったが、木曜日のユネスコタイム（朝問研、多文化学級）や芸術鑑賞（中国の楽器）を通じて国際理解を進めることができた。

取組内容⑤

○教職員対象アンケートで、「授業方法などについて、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合は 92%であり、目標とする 80%を達成することができた。
○支援教育の巡回指導を年 2 回活用して、個別の支援内容の共有を図ることができた。
○生徒対象アンケートで、「学校は学習のつまずきによく対処してくれている。」について肯定的な回答の割合は 89%であった。目標とする 80%を達成することができた。

取組内容⑥

○生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合は 65%であった。
○日本語版学校規模ポジティブ行動支援（日本語版 TFI）の結果は昨年度より向上することができた。

次年度への改善点

取組内容①

○授業内容や、講師選びを健康教育部を中心に学年と連携して検討していく。

取組内容②

○平和人権登校日や人権集会において、講師選びや内容を各人権委員会において検討していく。

取組内容③

○木曜日のユネスコタイムの取組の充実を図り、声かけの仕方や発信方法について各人権委員会において検討していく。

取組内容④

○次年度は国際理解に関わる人権集会を実施する予定である。鶴見橋中学校の生徒に深く関わる内容を国際理解教育委員会と共に作り上げる。

取組内容⑤

○支援教育に関する校内研修を年 1 回以上実施する。
○支援教育の巡回指導を年 1 回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。

内容⑥

○昨年度策定した目ざすべき生徒像「鶴見橋中３つのＴ」を生徒、教員で見直し、次年度に向けて取り組みを進めていく。

大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。 R5 2 年…0.75 R6 3 年…0.74 R5 1 年…0.61 R6 2 年…0.67</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。 R5 2 年…0.65 R6 3 年…0.64 R5 1 年…0.57 R6 2 年…0.60</p> <p>○大阪市英語力調査における CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 30% 以上にする。 R6 7 月…25.7%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。 R6 7 月…49% 12 月…43%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】</p> <p>○国語科の授業において読解力向上教材や新聞等を活用し、言語能力の向上を図る。</p> <p>○漢検を全校で実施する。</p> <p>○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70% 以上にする。</p> <p>○漢検において、5 級の合格率を昨年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】</p> <p>○数学科の授業において反復した演習により、基本的事項の定着を図る。</p> <p>○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 60% 以上にする。</p> <p>○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60% 以上にする。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○英語検定、GTEC を実施する。また、それらの取組の対策を実施し、基礎学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 ○英語検定において、5級の合格者を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○すべての教職員が年 1 回以上の研究授業を行い、相互参観、指導助言をすることで授業力向上を図り、生徒がわかりやすい授業を目指す。</p> <hr/> <p>指標 ○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を 70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○朝の学習、放課後学習に全校で取組み、学習習慣を身につけさせ、基礎的学力を向上させる。</p> <hr/> <p>指標 ○チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 R5 2 年…59.5% R6 3 年…60.0%</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ○縦割りで行う球技大会をはじめとして、各学年で 3 時間以上の体育的行事に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 ○生徒対象アンケートの、「運動やスポーツすることが好きである」に対する肯定的回答の全教科の平均を 80%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① ○生徒対象のアンケートで「国語の授業はわかる」に対して肯定的な回答をした生徒の割合は 69.3%であった。 ○漢検 5 級の合格者の割合が昨年度 2%だったのに対し、今年度の合格者の割合が 29.8%と大幅に向上することができた。</p> <p>取組内容② ○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は 72.3%、「数学の授業は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合は 62%と指標を上回ることができた。</p>	

取組内容③

○英検 5 級の合格者の割合が昨年度の 43.8%だったのに対し、今年度の合格者の割合が 55.6%と 10%以上向上することができた。

取組内容④

○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均は 77%であり、目標の 70%を達成することができた。

取組内容⑤

○チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、3 年生については、59.5%→60.0%となり、改善させることができなかった。家庭学習時間についても、課題があり、引き続き改善に取り組む。

取組内容⑥

○生徒対象アンケートの、「運動やスポーツをすることが好きである」に対する肯定的に回答する生徒の割合は、75%であった。

○体育大会での学年演技や文化祭の取り組みの中でダンスの練習を実施した。また、1・2 年生合同球技大会を年度末に実施する予定である。(2 年)
3 年生は学年レクで運動する機会を取り入れた。

次年度への改善点

取組内容①

○漢字検定の受験級を 2 級～10 級までに広げ、「まず合格する」ことを目標に取り組んだ結果、今年度の合格率を上昇させることができた。次年度は上位級への合格を目指して、年間を通して漢字の習得に力を入れていきたい。

取組内容②

○反復した演習により基礎学力の定着を図ることができている。今年度よりもさらに定着を図るためにもレベルに応じた授業づくりや習熟度別の授業なども行っていきたい。

取組内容③

○英語検定の合格率は昨年度に比べ向上する結果となったが、次年度は今年度よりも合格率の向上に向けて具体的に英語検定の対策期間の設定や個別指導などを行っていきたい。

取組内容④

○次年度も校内授業研修と相互授業参観を行い、生徒がわかる授業を学校全体で議論しながら作り上げていきたい。

取組内容⑤

○来年度も学校全体として、家庭学習課題について見直しを図り、課題の出し方、評価の仕方、何を目的として、課題を出すのかについて、共通理解と方針を持って取り組んで行く。

取組内容⑥

- 他学年と連携し、体育的行事を計画的に実施していきたい（2年）。
- 学年レクなどで運動する機会を検討する。

(様式 2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] 4 月…40.9% 5 月…46.4% 6 月…53.5% 7 月…73.5% 8 月…58.3% 9 月…63.6% 10 月…73.3% 11 月…69.0% 12 月…65.8% ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 I を満たす教職員の割合を 50% 以上にする。 4 4 月…66.7% 5 月…58.3% 6 月…54.2% 7 月…54.2% 8 月…56.0% 9 月…56.0% 10 月…56.0% 11 月…56.0% 12 月…56.0% 1 月…56.0%	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ○校内研修支援事業を活用し、全教科で生徒が主体的に ICT を活用した研究授業を年間 1 回以上実施する。 ----- 指標 ○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ○各種学力調査データを教科担当が分析し、PDCA サイクルを回す。 ----- 指標 ○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○サポーターを組織的に活用し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保する。 ----- 指標 ○毎月の 45 時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合を 50% 以下にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合は92%であり、目標の80%を大きく超えて達成した。</p> <p>取組内容②</p> <p>○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合は、R6 7月…80% 12月…89%で目標を達成することができた。</p> <p>○各学力調査結果について、各教科担当と管理職が分析し、職員調整連絡会議等で内容を共有し、学校ホームページに公開している。</p> <p>取組内容③</p> <p>○サポーターを活用し、授業中の生徒支援、登校生徒の見守り、教材準備等での教員の業務軽減を図ることができた。</p> <p>○毎月の45時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合は、R6年度…4月33%、5月42%、6月42%、7月33%、8月4%、9月24%、10月36% 11月24%、12月16%、1月20%であり、R5年度よりも減少することができた。</p>
次年度への改善点
<p>取組内容①</p> <p>○教員がICTを活用する授業を展開することはできている。生徒がタブレットを使う授業を校内授業研修などを利用して、各教科に合う利用方法を議論していきたい。</p> <p>取組内容②</p> <p>○さらに精緻な分析を行い、生徒の学力の現状を正確に把握し、教科指導力向上につなげていく。</p> <p>○学力面だけでなく、生活指導面での定期的なデータ収集について検討していく。</p> <p>取組内容③</p> <p>○来年度のサポーターの人材の確保が課題であり、次年度も常勤に近い勤務でのサポーターを複数名配置できるようにしていく。</p>

大阪市立鶴見橋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容【各教科】 【国語】 ○漢検を全校で実施する。 ○KODOMO 新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。 ○ICT を活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。 ○漢検において、5 級の合格률을昨年度より向上させる。	
【社会】 ○ICT を活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を行う。 ○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させる	A
指標 ○生徒対象のアンケートで「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。	
【数学】 ○ICT を活用し、数学への興味・関心を高める。 ○基本的事項の習得に向けて、プリントなどを活用し反復して演習を行う。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業はわかる」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。	
【理科】 ○実験や観察などの体験的な授業を積極的に行い、基礎知識や実験技能の向上を図る。 ○スライドやデジタル教科書などの視覚教材を活用し、基礎知識の向上を図る。 ○夏の自由研究やパソコンを用いた調べ学習など学習を深める取り組みを行い、思考力や判断力、表現力の向上を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。	
【英語】 ○ICT を活用し、音声による主体的で対話的な活動を設け、英語に対する興味・関心を高める。 ○語彙力と文法力を高め、英文を早く正確に読む思考力・判断力をつける。	B

<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。</p>	
<p>【音楽】</p> <p>○ICTを活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める。</p> <p>○楽曲理解を深める活動を行うことで、個々の思考力・判断力を育て、考えたことが表現力を高めることに繋がる授業計画を実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。</p>	
<p>【美術】</p> <p>○グループワークや発表の機会を設け、主体的・対話的な授業をめざす。</p> <p>○单元ごとに冊子を作り、授業の進行具合を明確にして、生徒の興味・関心を高め、美術活動に対する意欲を伸ばす。また、提出率を80%以上にする。</p>	A
<p>指標</p> <p>○各单元において自己評価を充実させて、言語能力を高めていく。</p> <p>○授業アンケートの「授業を受けて、その内容に興味関心や意欲を持つようになっていくか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を80%以上にする。</p>	
<p>【保健体育】</p> <p>○体づくり運動を体育の授業で毎時間、継続的に取り組むことで、基礎体力の向上を図る。</p> <p>○週に1回以上、試合で仲間と共に考え、協力して取り組める機会を作る。</p> <p>○生徒が安全に取り組めるように、準備運動を毎時間徹底し、学習環境の整備をする。</p>	A
<p>指標</p> <p>○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答を70%以上にする。</p> <p>○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答を70%以上にする。</p>	
<p>【技術家庭】</p> <p>○情報モラルや情報リテラシーについて取り組む。</p> <p>○家庭生活の衣食住について興味を持ち、家族と話せるように取り組む。</p> <p>○SDGsのエネルギー分野での知識を深める。</p>	A
<p>指標</p> <p>○「授業内容が分かる」の回答を60%以上にする。</p>	

	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
国語	<p>○生徒対象のアンケートで「国語の授業はわかる」に対して肯定的な回答をした生徒の割合は 69.3%であった。</p> <p>○年間を通じて、授業の最初の 5 分間を基礎学力定着の時間とした。その結果、漢字検定の合格率が大きく上昇した。来年度も継続して行っていきたい。</p>
社会	<p>○生徒対象のアンケートで「社会の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は 80%であり、目標の 70%を大きく超えて達成することができた。</p> <p>○すべての学年のすべての授業で教員が ICT を活用し、多くの資料を提示しながら理解しやすい授業を展開することができた。</p> <p>○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させることができた。</p>
数学	<p>○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は 72.3%、「数学の授業は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合は 62%であった。</p> <p>○反復した演習により基礎学力の定着を図ることができた。次年度は習熟度別授業も実施していきたい。</p>
理科	<p>○12 月に実施した生徒対象のアンケートで「理科の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合が 1 年生 71%、2 年生 84%、3 年生 66%で、3 学年平均では 73.7%であった。</p> <p>○デジタル教科書やスライドを使い、目に見えない現象を視覚的に見せることができ、よりわかりやすい授業を行うことができた。</p>
英語	<p>○12 月に実施した生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合が 1 年生 55%、2 年生 47%、3 年生 74%であった。3 学年平均で 58.9%であった。授業に関する内容定着のための時間を増やすことが学習内容の理解につながると考えられる。</p>
音楽	<p>○12 月に実施した生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は 1 年生 82%、2 年生 70%、3 年生 79%であった。3 学年平均で 77%であった。</p> <p>○今年度デジタル教科書を使用し、以前よりもわかりやすいと感じる生徒は多かったように感じる。今後も ICT をうまく活用して取り組んでいきたい。</p>
美術	<p>○12 月に実施した生徒対象のアンケートで、「美術は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合が 1 年生 76%、2 年生 82%、3 年生 81%であった。3 学年平均で 80%であった。このままの調子で頑張っていきたい。</p> <p>○冊子を使った授業は定着していて、「わかる」に貢献している。1 年生 82%、2 年生 77%、3 年生 73%であった。3 学年の平均 77%であった。</p>

保健 体育	<p>○毎回の授業での体づくり運動の実施とトレーニングを行うことで、体力の向上を図った。</p> <p>○安全に取り組めるよう、毎時間の準備運動を徹底し、けがの防止に努めた。</p> <p>○学期末に実施したアンケートでは、「興味・関心・意欲向上」に関する項目では、肯定的に回答する生徒の割合は男子が91%、女子が88%であった。</p> <p>また、「体育の授業はわかる」の項目において肯定的に回答する生徒の割合は、男子が93%、女子が82%であった。</p>
技術 家庭	<p>○12月に実施した生徒対象のアンケートで「技術の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は1年生76%、2年生61%、3年生66%であった。3学年平均で67.6%であった。「家庭科の授業はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は1年生81%、2年生75%、3年生81%であった。3学年平均で79%であった。</p> <p>○実習やスライドづくりなど生徒が興味関心の高い課題を今後も継続して続けていく。</p>